

『看護学生の主体性を育む協同学習』 看護教育に協同学習を 取り入れようとする際の 一指針となる書

著：緒方巧／定価：本体 2,600 円＋税
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



私が緒方巧先生と協同学習に出会い、手探りの状態から本校に協同学習を取り入れ3年が経過した。学生同士や学生と教員が協同学習をますます深化させていく時期にさしかかったといえる。

協同学習の定義(条件)を理解するうえでもっともわかりやすい技法が「ジグソー学習法(以下、ジグソー)」である。まずクラスを4～6人構成のグループに分け、グループのメンバーそれぞれが自分の担当する学習課題について責任をもって学び、互恵的に教え学び合う。分割された学習課題が合わせられて初めて学習課題の全体が完成する仕組みとなっている。本書のⅡで紹介されているジグソーを用いた「注射の技術」の展開例は、学習課題やグループ編成、進め方、チェックリスト、必要物品など演習の準備について詳細に記載されているのでわかりやすい。本校でもすでに「注射の技術」はジグソーを取り入れている。しかし、教師役の学生が、自分の役割に集中しすぎてグループの達成を見失っているのではないかと不安を感じる場面があったが、本書にはジグソーを用いた教育方法で展開する意図や計画を学生に提示している文書が記載されており、個人と全体の方が見えやすく、私自身の不安解消となった。

また、学生が「難しい」と感じる看護過程の授業展開例は、1回ずつの授業計画や演習評価表が記載されており興味深かった。本書のⅢでは、学生

が困難を乗り越えていける授業の仕掛けがたくさん紹介されている。私は授業開始後にグループメンバーの1人ひとりが順番に話し、またそれを聴くという「ラウンド＝ロビン」の方法でウォーミングアップを実践してみて、学生の集中力が高まった手応えがあった。また、90分の授業のなかで、15～20分を目安に個人思考、「シンク＝ペア＝シェア」「ノート＝テーキング＝ペア」などの手法を取り入れ、学生たちに投げかける内容を吟味する毎日である。

それらの協同学習の活動を通して、学生たちの事前学習の差やグループ間の差に気づくことがある。しかし、この本を読み終え、部分的な差を埋め合わせようとするのではなく、あえてクラス全体のなかで「違い」や「差」を取り上げ、多様な見解にふれさせてはどうか、また建設的討論法を用いてディスカッションし、1つの正解ではなく複数の可能性や統合案を見出せるのではないかと、自分なりに改善に向けての糸口を探る機会をととなった。

今後も、学生たちの反応や結果をもとに試行錯誤しながら、協同学習法を実践していきたいと思っている。ただ、実践しているうちに協同学習の本質から逸脱することないように、この書に立ち返って何度でも読み直したい。読者諸氏にも、本書を通じて日々の教育に協同学習を取り入れることをお勧めする。